

会 議 録

1 会議名	第2回 南砺市子ども読書活動推進計画策定会議
2 議題	(1) 委員長あいさつ (2) 南砺市子ども読書活動推進計画(第3次)について (3) 今後のスケジュールについて (4) 閉会のあいさつ
3 開催日時	平成28年11月4日(金) 午後1時30分から午後2時50分
4 開催場所	南砺市役所井波庁舎 3階 301会議室
5 会議出席者	南砺市子ども読書活動推進計画(第3次)策定会議 出席8人/全10人 委 員：影近義明、広橋里志、城寶マチエ、武田和一、正平浩美、田中かず代、豊川覚、竹谷弘之 事 務 局：生涯学習スポーツ課長、生涯学習係長、中央図書館副主幹、中央図書館主査、生涯学習係主事
6 欠席者	福田祥子、川田真紀
7 傍聴者	無し
8 議事内容	開 会 生涯学習スポーツ課長 (1) 委員長あいさつ 進 行：委員長 (2) 南砺市子ども読書活動推進計画(第3次)(案)について 事 務 局：前回のご意見を参考に写真やグラフを取り入れ作成した。前回より見やすくなったのではないかと思う。欠席者より事前にP.14の今後の取り組みについての「データベース化をしない」という言い回しは、違和感があるという意見をいただいております、「データベース化を順次取り入れていくように努めます」という文に変更したいが、皆様のご意見を伺いたい。 委 員：前回よりだいぶ良くなったと思う。しかし、学校現場の部分についてはあまり第2次と変化していない。今後検討していきたい。 委 員：P.5の今後の取り組みについての「園内に絵本コーナーを設置すること」という文は、もうほとんどの園が設置済みであるのでほかに良い言い回しはないか。P.7の現状と課題、今後の取り組みの中の「利用に障がい」という言葉の使い方をもう少し検討していただききたい。あえて入れなくても次の文の、「音声・拡大読書器」という言葉で理解ができるのではないか。P.7の読書環境の整備の中の文は、今一度検討が必要である。また、「て・に・を・は」の使い方など細かいところもしっかり見直していただきたい。

委員：先月、連携会議を開催した。非常に有意義な会議になった。その中で、団体貸付になると管理上の問題で学校外に持ち出すことができないのが不便であるという意見が多い事が分かった。その意見を基に P.11 の今後の取り組みについて、「連携、管理を定期的に行う」という文などを付け加え、「団体貸付の本も自宅に持ち帰れる取り組みをしていきたい」という文も加えたら良いのではないか。P.13 の郷土に関する本の文で広報やパンフレットを収集するのもよいが、南砺市の偉人の本は難しい本が多く小学生向けではない。学習漫画などあれば手にとりやすい。P.14 の今後の取り組みについて、データベース化とコンピューター管理の違いは、データベース化は、学校にある本をコンピューター上に記録しているだけの事で、コンピューター管理は本にバーコードつけて借りた人も管理する事である。今後の取り組みについての文は「データベース化とともに、コンピューター管理に努めます」という方が良いのではないか。蔵書を充実するにあたりコンピューター管理は非常に大切である。

委員：児童館は読書が主ではなく、読書も含めいろいろな遊びを経験してもらおう場所である。P.5 の児童館の読書活動の推進の中の文で、児童館は放課後に集まる場なので、家庭では購入しにくい本や図鑑、宿題に役立つ本を積極的に取り揃えていることを入れてほしい。また、「図書コーナーの設置をする」という文も必要ないと思う。児童館で子どもたちは、読書には親しんでいる。また、使っている写真が偏っているのでいろいろな地域の写真を使ってほしい。レイアウトも現状と課題、今後の取り組みが同じページであれば良い。

委員：P.5 の児童館の写真の部分は、他の児童館の現状を把握しておらず、偏った写真になってしまった。次のページにも写真が必要なのか検討する必要がある。データベース化については、連携会議の中でも議論された。団体貸付については、本の紛失があったときの対策として学校以外の持ち出しを禁止してきた。ただ、図書館としても本の紛失の対策を徹底していただければ家庭に持ち帰るような形を望んでいる。費用が非常にかかることなので、今後の課題としていきたい。市立図書館のなかでは、図書館システム（サーバー）を使用している。似たものが小学校の中で使用できないかどうか情報を確認中である。

副委員長：各地域の市立図書館がないところの対策として、学校図書館の充

実が有効ではないかと。他の委員の方の意見を伺いたい。

委員：私の地域は市立図書館がなく、昔、施設の中にあった小さな図書コーナーも今では使用されていない。ただ、南砺市より図書費として予算を頂いているのでたくさんの本を購入する事ができている。本の種類を揃えることによって、子どもたちは市立図書館がなくても読書に親んでいる。

副委員長：南砺市子ども読書活動推進計画の表紙は、前回のなんと君から子どもたちの読書をしている写真に変更してはどうか。また、P.14のグラフについても、色の検討が必要である。また、全体的に語尾など具体的ではない書き方になっているように感じられる。検討していただきたい。

委員長：事務局には、今回出た意見を参考に修正していただきたい。だが、前回よりはだいぶ見やすくなっている。データベース化やコンピューター管理については膨大な費用がかかる。現在の学校は図書室としてではなく校舎内のオープンスペースに蔵書が置かれていることが多いため、やはり、管理は大切である。

委員：第2次の時より読み聞かせボランティアグループが増えているがどのようにして増やしたのか。

事務局：ボランティア養成講座を実施して増やした。

委員：ボランティアグループの高齢化も進んでいるのでぜひ今後も養成を強化していただきたい。

委員：文書内の文章、漢字、言葉、送り仮名の使い方など細かいところも見直していただきたい。

委員：学校司書の名称の使い方について教えていただきたい。

事務局：学校司書助手を含めて学校図書館担当職員としている。学校司書教諭とは別である。国の表記にならって使用した。

副委員長：P.12に司書教諭の配置状況の表があるので、司書教諭と学校図書担当職員の違いについて、分かりやすい説明書きを入れた方がよい。

委員：P.10の表については、目標司書数を削除したい。その他のページの表と統一されていないので統一させる必要がある。

委員長：H28 目標数は、そのほかの目標数の入っていない表にすぐに入力

できるものなのか。

委員：総合計画との兼ね合いもあり、なかなか難しいことである。増減を入れるのも良いのではないか。表の入っている場所が、現状と課題に入っていたり、今後の取り組みに入っていたりするのをまた検討していただきたい。

委員長：言葉の使い方などしっかりと見直して頂きたい。

委員：司書数において、目標数の基準はあるのか。

委員：ない。

委員：南砺市のなかでは、司書教諭の免許を持っていても任命されていない人もいる。司書教諭であっても学校担当職員として任命している。

また、蔵書数については、南砺市はこの5年で非常に伸びており成果が感じられる。

事務局：たくさんのご意見をいただいたなかで検討し、次回の策定委員会までにはさらに良き3次の計画になるよう努めていきたい。

(3) 今後のスケジュールについて

事務局：(資料によって説明)

(4) 閉会あいさつ 副委員長

--	--